

- 1 競技規則は、(公財)日本ソフトテニス連盟発行「ソフトテニスハンドブック」に準拠する。競技はすべて7ゲームマッチとする。
- 2 選手変更・ベンチ入り指導者変更については、所定の用紙に記入し、受付時までに競技委員長に届け出て承認を受ける。
- 3 大会使用球については、男子はケンコーボール、女子はアカエムとする。(11月の山口県スポーツ大会から男女でボールを入れ替える。)
- 4 選手は円滑な進行のため次の事項を厳守する。
  - (1) 放送等での呼び出しは原則行わないで、進行には十分に注意する。
  - (2) プレーヤーは、前のマッチ開始後、当該コート後ろに待機しておく。前のマッチが終了し、アンパイラーが用意してから5分経過で警告1回(イエローカード)とし、3回をもって失格(レッドカード)とする。(15分経過で失格)
  - (3) マッチ前の練習は1分以内(45秒でレディとコールする)とする。練習後はベンチには戻れない。ただし、進行の都合上省略されることもある。
- 5 競技用具・服装については次の条件を守る。
  - (1) ユニフォームは、(公財)日本ソフトテニス連盟が公認したメーカーのテニスウェアを着用する。着用にあたっては、(公財)日本ソフトテニス連盟の定める「ユニフォーム等の着用基準」を厳守する。
  - (2) シューズは、(公財)日本ソフトテニス連盟が公認したメーカーのテニスシューズを着用する。
  - (3) アンダーウェア(長袖を含む)及びスパッツの着用については、単色の製品を原則とする。
  - (4) ラケットは、(公財)日本ソフトテニス連盟の公認マークが付いているものを使用する。
  - (5) 選手は、(公財)日本ソフトテニス連盟の定めるゼッケンを背中に付ける。(B5版の白布に、ゴシック体太文字、日本文字で記入し、必ず四隅を安全ピン等で留める。)
- 6 マッチ中はアンパイラーの指示に従い、マナーを尊重してプレーする。異議の申し立てや、故意のプレー中断をしてはならない。
- 7 連続的プレーに関する行為の違反には、「レツツプレー」と促す。それでも従わない場合は、コールと同時に警告(イエローカードの提示)を与える。
- 8 アンパイラーに対する質問は、当該プレーヤーのいずれかができる。
- 9 プレーヤー以外にベンチ入り指導者がコート内の指定位置(ベンチ)に入ることを認める。
- 10 助言は、サイドのチェンジ及びファイナルゲームに入る場合に1分以内(45秒でレツツプレー…ブザーを鳴らす)を認める。それ以外は警告とする。
- 11 ガットが切れた場合の対応は、選手が複数本準備してコートに入るのが基本であるが、無い場合は、自校控え場所へ速やかに取りに行くことを認める。(「遅延行為」としての指導対象外)
- 12 ベンチ入り指導者は次の事項を守る。
  - (1) ベンチに入る者は1名とし、やむを得ない事情の場合を除き、マッチ中に出られない。また、マッチ中のベンチ入り指導者の交代は認めない。
  - (2) 服装は選手に準じ、IDカードを必ず着用する。
  - (3) アンパイラーへの質問は一切できない。
  - (4) 情報機器(携帯電話・iPad・イヤホン等)の使用は禁止する。(持ち込む場合は鞄等の中)
  - (5) 私物の椅子の持ち込みはできない。
- 13 ベンチ内での日傘の使用を認める。ただしプレーに支障が出ないもの(太陽光を反射しない黒色または紺色)を使用し、使用者自身が日傘を持つことを原則とする。スタンドの応援者も同様とする。
- 14 1・3・5・6ゲーム終了後はベンチへ戻り、1分以内の助言と給水時間をとることができる。ただし、選手の健康面(熱中症等)を考慮し、チェンジサービス時(2・4ゲーム終了時)の給水を認める場合もある。その際は、大会本部より連絡する。※選手は給水用の容器等を予め審判台の下に置いておき、審判台付近のコート内で給水をとる(ベンチへは戻れない)。給水時間は30秒以内とし、隣コートのマッチの支障とならないよう十分留意する。
- 15 審判については競技規則を熟知し、公正を記して指定されたマッチの審判をすること。(ワッペンは左胸着用)
- 16 会場での気温(乾球温度)が35℃以上となり、ファイナルゲームとなった場合、ファイナルゲームに入る前に3分間のコート内の日傘による日陰(アンパイラーの目の届く範囲)での休憩を許可する。1分間は助言を受けることができるが、残りの2分間に助言を受けることはできない。ヒートルールの採用・解除は、掲示・放送によるアナウンスで行う。[競技規則第46条 ヒートルール]
- 17 その他、問題が生じた場合には、大会当日、監督連絡会で説明する。

## 令和7年度 競技上の注意【団体戦】

2025. 4. 1

山口県高等学校体育連盟ソフトテニス専門部

- 1 競技規則は、(公財)日本ソフトテニス連盟発行「ソフトテニスハンドブック」に準拠する。  
競技はすべて7ゲームマッチとする。
- 2 3ペアによる点取り対抗戦とし、2点先取したチームを勝ちとする。2ペアでも県内大会に限り出場は認める。  
その際のオーダーは、1・2対戦目を行い、3対戦目を不戦敗とする。  
2面および3面同時展開の場合、勝敗が決定次第進行中のマッチの順番に關係なくトーナメント戦は打ち切りとする。(リーグ戦は別)
- 3 選手変更・監督変更については、所定の用紙に記入し、受付時までに届け出て、承認を受ける。
- 4 オーダー票は所定事項を記入し、大会本部の指定した時刻までに速やかに提出すること。
- 5 大会使用球については、男子ケンコーボールは、女子はアカエムとする。(11月の山口県スポーツ大会から男女を入れ替える。)
- 6 円滑な進行のため次の事項を厳守する。
  - (1) マッチ前の練習は1分以内(45秒でレディとコールする)とする。練習後はベンチには戻れない。ただし、進行の都合上省略されることもある。
  - (2) 試合中、監督およびマッチに出場しない選手は、原則として指定位置(ベンチ)に待機する。
- 7 競技用具・服装については次の条件を守る。
  - (1) ユニフォームは、(公財)日本ソフトテニス連盟が公認したメーカーのテニスウェアを着用する。  
着用にあたっては、(公財)日本ソフトテニス連盟の定める「ユニフォーム等の着用基準」を厳守する。
  - (2) シューズは、(公財)日本ソフトテニス連盟が公認したメーカーのテニスシューズを着用する。
  - (3) アンダーウェア(長袖を含む)及びスパッツの着用については、単色の製品を原則とする。
  - (4) ラケットは、(公財)日本ソフトテニス連盟の公認マークが付いているものを使用する。
  - (5) 選手は、(公財)日本ソフトテニス連盟の定めるゼッケンを背中に付ける。(B5版の白布に、ゴシック体太文字、日本文字で記入し、必ず四隅を安全ピン等で留める。)
- 8 マッチ中はアンパイラーの指示に従い、マナーを尊重してプレーする。異議の申し立てや、故意のプレー中断をしてはならない。
- 9 連続的プレーに関する行為の違反には、「レツツプレー」と促す。それでも従わない場合は、コールと同時に警告(イエローカードの提示)を与える。
  - (1) ゲームの進行に支障をきたすようなパートナー同士の打ち合わせ行為。
  - (2) 選手と観客席の応援団との一体となった応援(同調したかけ声等)
- 10 アンパイラーに対する質問は、監督または当該プレーヤー(どちらか1名)のいずれかができる。
- 11 助言は、サイドのチェンジ及びファイナルゲームに入る場合に1分以内(45秒でレツツプレー…ブザーを鳴らす)を認める。それ以外は警告とする。
- 12 チームでエール行為を行う場合は、双方相手のエール行為を待たないものとする。  
※1試合目の選手は、整列・対戦の挨拶後1分以内に試合のできる服装(ウェア)で整列する。また、その後の2・3試合目の選手も同様(ウェア)とする。
- 13 監督は次の事項を守る。
  - (1) 指定位置(ベンチ)は、大会本部が定めた位置とし、やむを得ない事情を除き、マッチ中に出られない。
  - (2) 服装は選手に準じ、IDカードを必ず着用する。
  - (3) 2面および3面同時展開の場合の監督位置は本部より指定する。(山口県特別ルール)
  - (4) 情報機器(携帯電話・iPad・イヤホン等)の使用は禁止する。(持ち込む場合は鞄等の中)
  - (5) 私物の椅子の持ち込みはできない。
- 14 ベンチ内での日傘の使用を認める。ただしプレーに支障が出ないもの(太陽光を反射しない黒色または紺色)を用し、使用者自身が日傘を持つことを原則とする。スタンドの応援者も同様とする。
- 15 1・3・5・6ゲーム終了後はベンチへ戻り、1分以内の助言と給水時間をとることができる。ただし、選手の健康面(熱中症等)を考慮し、チェンジサービス時(2・4ゲーム終了時)の給水を認める場合もある。適用の有無は大会本部より連絡する。※選手は給水用の容器等を予め審判台の下に置いておき、審判台付近のコート内で給水する。(ベンチへは戻れない)給水時間は30秒以内とし、隣コートのマッチの支障とならないよう十分留意する。
- 16 審判については競技規則を熟知し、公正を記して指定されたマッチの審判をすること。(ワッペンは左胸着用)
- 17 会場での気温(乾球温度)が35℃以上となり、ファイナルゲームとなった場合、ファイナルゲームに入る前に3分間のコート内の日傘による日陰(アンパイラーの目の届く範囲)での休憩を許可する。1分間は助言を受けることができるが、残りの2分間に助言を受けることはできない。ヒートルールの採用・解除は、掲示・放送によるアナウンスで行う。[競技規則第46条 ヒートルール]
- 18 その他問題が生じた場合や変更点は、大会当日、監督連絡会で説明する。